

成人・老年看護方法論演習Ⅱ Practice:Adult and Gerontological Nursing II

| | | | | | |
|---------------|--|-----|----|------|-------|
| 担当教員 | 中道淳子、紺家千津子、臺 美佐子、松本勝、松本智里、大西陽子、額奈々、今方裕子、瀧澤理穂、大橋史弥 | | | | |
| 実務経験 | 複数の教員が担当しており、全員に病院勤務経験がある。 | | | | |
| 開講年次 | 3年次前期 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 講義・演習 |
| 必修・選択 | 必修 | 時間数 | 30 | | |
| Keywords | 老年期、回復期、慢性期、介護保険施設、看護展開 | | | | |
| 学習目的・目標 | <p>目的： 紙上事例から、老年期（一部成人期を含む）に起こり易い健康問題のアセスメント、看護援助計画・立案の知識・技術を習得し、看護過程が展開できる能力を養う。</p> <p>目標： 1.ヘルスケア・アセスメントの技法について習得する。 2.紙上事例中に提示された事実から、看護に必要な事実を選び出し、部分的・断片的な情報の意味を考え関連づけて、対象であるその人全体の中に位置づけることができる。 3.高齢者（一部成人）が健康的に生きていくための視点をもって、看護の方向性・援助計画を立案できる。 4.対象にあわせたケアの手順書を作成することができる。 </p> | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | |
| 回 | 内容 | | | | |
| 1-2 | ガイダンス 老年看護における看護過程の展開 【演習1-1】看護過程の展開：脳血管障害による片麻痺の患者への看護（事例提示） | | | | |
| 3-4 | 【演習1-2】看護過程の展開：脳血管障害による片麻痺の患者への看護（展開の具体的な方法） | | | | |
| 5 | 【演習2】脳血管障害による片麻痺の患者への看護 運動・排泄機能障害：移動・移乗動作の援助 | | | | |
| 6-9 | 【演習3-1】看護過程の展開：（グループワーク）認知症があり介護老人保健施設で療養する高齢者（一部成人）への看護 事例提示・情報の整理、病態の押さえ、全体像看護の方向性、看護計画立案 | | | | |
| 10 | 【演習3】看護過程の展開：（グループワーク）認知症があり介護老人保健施設で療養する高齢者（一部成人）への看護 発表・全体討議・まとめ | | | | |
| 11-12 | 【演習4】（グループワーク）認知症があり介護老人保健施設で療養する高齢者（一部成人）への看護 ケア計画立案、手順書作成【演習5】【演習6】 | | | | |
| 13-14 | 【演習5】足浴・フットケア 【演習6】認知機能障害への非薬物療法 | | | | |
| 15 | 高齢者の意思決定支援 ・高齢者とのコミュニケーションについてプロセスレコードを用いて考える | | | | |
| 教科書 | 系統看護学講座：成人看護学総論、医学書院 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学2~11 水谷信子他編、最新老年看護学、第4版、日本看護協会出版会、2023. | | | | |
| 参考図書等 | 疾病・障害で使用したテキスト 看護学大辞典6版（電子版）メディカルフレンド社 | | | | |
| 評価指標 | レポート課題 80%、筆記試験 20% *講義、グループワークの時間数の2／3以上の出席がなければ、試験は受験できず、評価の対象にはならない。 *授業態度において、事前課題に取り組んでいない場合や、遅刻等の場合、減点の対象とする。 | | | | |
| 関連科目 | 本科目の履修条件は、基本的に成人看護学概論、成人看護方法論I・II・III、老年看護学概論、老年看護方法論I・IIを履修し、単位認定されていることとする。 関連科目：成人看護学概論、老年看護学概論、成人看護方法論I・II・III、老年看護方法論I・II、成人・老年看護方法論演習I・II、成人・老年看護学実習（急性期）、成人・老年看護学実習（慢性期）、解剖生理学／演習、代謝と栄養、疾病・障害論I～II C、フィジカルアセスメントI・II、薬理学など | | | | |
| 教員から学生へのメッセージ | 高齢者（一部成人）への看護援助技術を展開することは、自立と依存の関係に目を向けることです。 この単元を習得し、自分の知識と関心を高齢者（一部成人）に表現する技を身につけていきましょう。 | | | | |